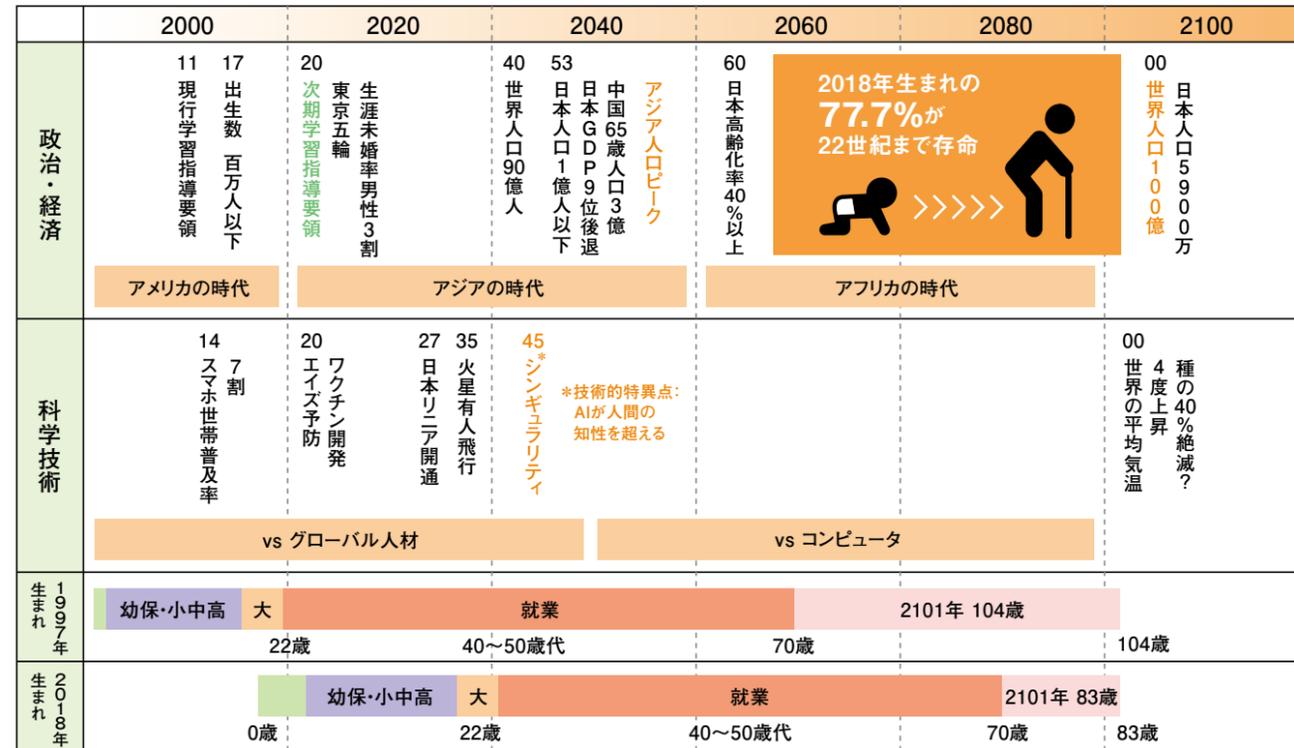


## 22世紀を生きる子どもの未来と教育

【図表5】今の子どもたちが活躍する未来



\*各種報道・将来予測を参考にベネッセ教育総合研究所が作成

**1 今の学生、未来の学生が生きる将来を想定した議論をしているか？**

そもそも【図表5】で示したような社会を想定して、国際化をはじめとした自学の教育プログラムのあり方を全学レベルで議論しているだろうか？ それがないままプログラムやメニューを量産してはいないだろうか？

**2 教育の目標や内容を、社会の変化に応じて変えているか？**

教育の目的は普遍的でも、その目標は社会変化に対応すべきだ。目標が変われば、当然学び方や評価のあり方も見直す必要がある。ベネッセ教育総合研究所の木村治生主席研究員によると、「今の教育改革で求められているのは、新しい考え方や技術を使ってこれからの社会を創造する、積極的に能動的な側面。学びを変えるのは、自分自身の未来をつくり、社会の変革や創造に貢献するため。そうした未来志向で、学習者が自分の学びを組み立てていくことが理想だ」という。

グローバル化やポータルレス化は後戻りしない。かつては閉じていた社会ネットワークが、今で

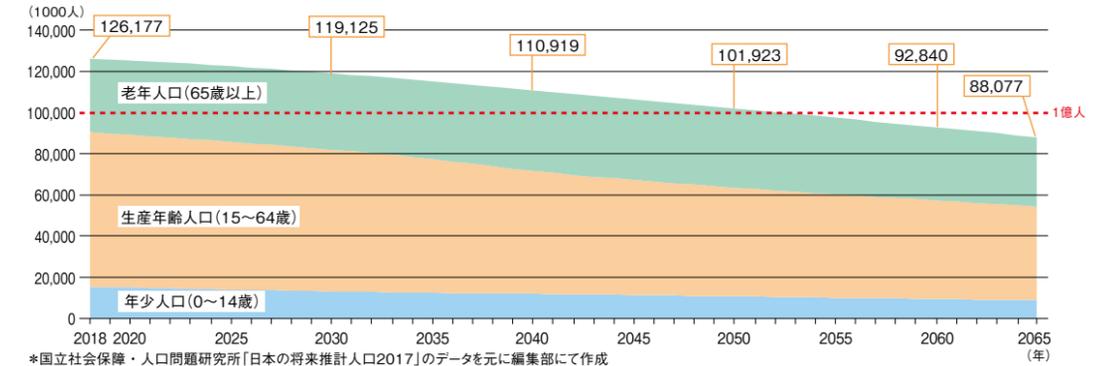
**3 大学として主体的に国際化に取り組んでいるか？**

国際化にまつわるさまざまな取り組みは手間がかかり、コストもかさむ。しかし外国人との共生・協働社会は確実に訪れる。また成果が挙がらない要因として、「学生が内向きであること」が言われるが、そうであればこそ、外に関心を向かせるための「教育の仕掛け」づくりと、大学自身の国際化を率先して行うべきだろう。

高校生の進学先が徐々に海外に広がり、中国のトップ大学が日本の高校生を採りに来ている現実もある。どんな大学であれ、「国際化は不可避な経営課題」との認識を取り組みたい。

## 日本の現実・未来を直視する

【図表1】世界人口が増加する一方で、縮小していく日本の人口～将来推計人口



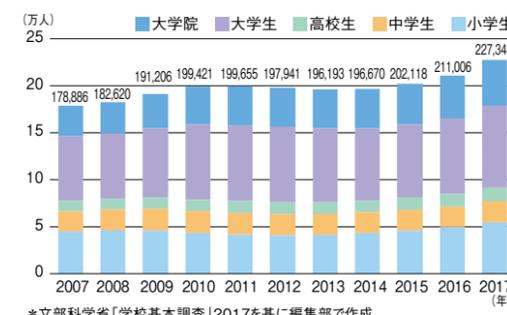
\*国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口2017」のデータを元に編集部にて作成

【図表2】専門的・技術的職業従事者の不足が特に深刻～2030年の職業別人手不足推計 (単位: 万人)

	需要	供給	供給-需要	説明
管理的職業従事者	148	138	-10	議会議員、管理的国家公務員、会社役員、会社管理職員等
専門的・技術的職業従事者	1,413	1,201	-212	研究者、製造技術者、情報処理・通信技術者、医師、保育士、裁判官、公認会計士、教員等
事務従事者	1,493	1,326	-167	庶務事務員、人事事務員、企画事務員、総合事務員、秘書、会計事務従事者等
販売従事者	881	841	-40	商品販売従事者、不動産仲介・売買人、有価証券売買・仲立人、営業職業従事者等
サービス職業従事者	1,014	943	-71	介護職員、看護助手、理容師、調理人、飲食物給仕従事者等
保安職業従事者	149	126	-23	自衛官、警察官、看守、警備員等
農林漁業従事者	116	118	2	農業従事者、林業従事者、漁業従事者
生産工程従事者	798	738	-60	生産設備制御・監視員、製造・加工処理従事者、機械検査従事者等
輸送・機械運転従事者	266	244	-22	電車運転士、バス運転者、貨物自動車運転者等
建設・採掘従事者	186	235	49	大工、とび職、土木従事者等
運搬・清掃・包装等従事者	608	518	-90	郵便・電報外務員、配達員、ビル・建物清掃員等

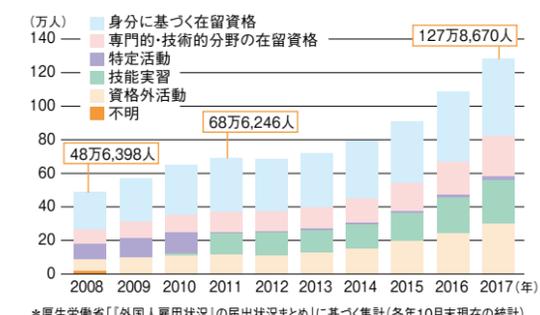
\*パナソニック総合研究所・中央大学「労働市場の未来推計2030」より

【図表4】日本の学校で学ぶ外国人は増加中～外国人児童・生徒・学生数推移



\*文部科学省「学校基本調査」2017を基に編集部で作成

【図表3】外国人労働者数は急速に増加中～わが国における外国人労働者数の推移



\*厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめ」に基づく集計(各年10月末現在の統計)

**日本の現実・未来と大学の国際化の関係**

日本の人口は、30数年後には1億人を切る事が予測されており、労働力不足は深刻な問題だ【図表1】。約10年後の2030年には、人手不足は600万人を超え、職業別では研究者や技術者、医師や教員といった高等教育を経て就くことが多い「専門的・技術的職業従事者」の不足が顕著だという【図表2】。人手不足を補うため外国人材の受け入れ拡大が進められているが、現状でも外国人労働者数は急増し約128万人になり、教育現場でも外国人の児童・生徒・学生数は増加中で、20万人を超えている【図表3、4】。

日本の現実的な未来は、外国人との共生・協働社会の確立が必須であることを明確に示している。【図表5】は、今、そして未来の学生が生きるであろう22世紀の未来予想図だ。2018年に生まれた子どもたちは、77.7%が22世紀まで存命する可能性があるという。グローバル化、ポータルレス化が進む未来社会を生きる学生、子どもに対して、どのような教育を提供すべきか。その見直しをするにあたっては、次の3つの視点が外せないだろう。

学生目線での国際化の3つの視点